

在宅要介護高齢者の主観的 QOL を向上させる要因に関する研究

新岡大和¹⁾

1) 青森県立保健大学理学療法学科

Key Words ①主観的 QOL ②通所リハビリテーション ③要介護高齢者 ④縦断研究

I. はじめに (または「緒言」等)

本邦の平均寿命は延長し続けており、高齢者にとって延長された高齢期の Quality of life (以下、QOL) は大きな関心事である。QOL は様々な概念を包括するが、その状態を客観的、量的に表す尺度が開発されてきた。ただ、老化や廃用が進行して心身機能が低下しつづける高齢者、特に要介護高齢者を対象とした場合、健康関連 QOL のような疾患や心身機能の改善を前提とする尺度だけでは QOL を十分に表しきれないと考えられる。日常生活や人生全体に対する主観的な満足度や充実度、自身を取り巻く状況に対する評価である主観的 QOL が重要である。

II. 目的

これまで研究代表者は要介護高齢者を対象に主観的 QOL に関連する身体的・心理的・社会的要因を横断的に調査し、抑うつとソーシャルスキルが影響を与えることを報告した。本研究の目的はこれらの対象者を追跡し、対象者の主観的 QOL に関連する要因がどのように変化したか確認すること、過去の身体的・心理的・社会的要因がその後の主観的 QOL に与える影響を明らかにすることである。

III. 研究方法 (または「研究の経過」等)

1. 対象

通所リハビリテーション (以下、通所リハ) 1 施設の利用者のうち、本研究の目的を説明し、同意を得られた通所リハ利用者を対象とした。取り込み基準は 65 歳以上の要介護高齢者であること、認知機能が保たれていること、測定方法が理解できることとした。2014 年に実施された初回調査で協力が得られた 51 名のうち、追跡調査時に取り込み基準を満たした 34 名を分析対象とした。

2. 調査方法

測定・調査は 2017 年 8 月から 9 月に通所リハ利用者の利用日に通所リハ施設で実施された。測定・調査項目を表 1 に示す。研究代表者が対象に身体機能測定を実施するとともに、実態調査としてカルテから基本情報等を得た (表 1)。質問紙調査は自記式質問紙を配布し回答を得た。

3. 統計的解析

得られたデータの正規性を確認するために Shapiro-Wilk 検定を実施した。その後、追跡調査時の主観的 QOL に関連する要因を明らかにするために、主観的 QOL の程度を表す変数を従属変数、その他の変数を独立変数とした単相関分析と重回帰分析 (ステップワイズ法) を実施した。また、追跡調査時の主観的 QOL と関連する要因を明らかにするために追跡調査時の主観的 QOL の程度を表す変数を従属変数、初回調査時のその他の変数を独立変数として同様の分析を行った。全ての統計解析について有意水準を 5% とし、SPSS (ver22.0, IBM) を使用した。

表1 測定・調査項目

評価項目		評価目的
身体的要因	30秒椅子立ち上がりテスト	下肢筋力
	最大5m移動時間	移動能力
	Numerical Rating Scale	疼痛
	機能的自立度評価法の運動項目 (FIM-m)	複合的動作能力
心理的要因	生活満足度 K	主観的QOL
	老年期うつ病尺度 (GDS-15)	抑うつ
	SF-8 Health Survey PCS	健康関連QOLの身体的側面
	MCS	健康関連QOLの精神的側面
社会的要因	日本語版 Lubben Social Network Scale 短縮版 (LSNS-6)	ソーシャルネットワーク
	Kikuchi's Social Skill Scale 18項目版 (KISS-18)	ソーシャルスキル
基本情報	年齢	基本属性・取り込み基準
	性別	基本属性
	要介護度	基本属性
	Mini Mental State Examination	取り込み基準
	趣味・生きがいの有無	趣味・生きがい

IV. 結果・考察

追跡調査時の主観的 QOL に相関を示した追跡調査時の変数は抑うつ ($r=-0.47$), 健康関連 QOL の身体的側面 ($r=-0.42$), ソーシャルスキル ($r=-0.58$) であった. これらの変数を独立変数, 主観的 QOL を従属変数として重回帰分析をした結果, ソーシャルスキルが選択された (表 2).

追跡調査時の主観的 QOL に対して相関を示した初回調査時の変数は, 抑うつ ($r=-0.46$), 健康関連 QOL の精神的側面 ($r=-0.39$), ソーシャルネットワーク ($r=0.66$), ソーシャルスキル ($r=-0.60$), 趣味の有無 ($r=-0.54$) であった. これらの変数を独立変数, 主観的 QOL を従属変数とした重回帰分析をした結果, ソーシャルスキルが選択された (表 3).

これらの結果から, 通所リハビリ利用者の主観的 QOL に影響を与える要因は, 社会的要因のソーシャルスキルであることが明らかとなった. 一方で, 重回帰式の適合度が低いことから, 採用した要因以外にも検討すべき要因があることが示された.

表2 追跡時の主観的 QOL を従属変数, 追跡時のその他の変数を独立変数とした重回帰分析結果

	非標準化係数		標準化 b	t	有意確率 (p)	β の 95.0% 信頼区間		VIF
	β	標準誤差				下限	上限	
定数	8.836	1.393		6.346	.000	5.996	11.677	
KISS	-.108	.029	-.557	-3.735	.001	-.166	-.049	1.000

ANOVA $p<0.01$ $R=0.557$ $R^2=0.310$ 自由度調整済み $R^2=0.288$

表3 追跡時の主観的 QOL を従属変数, 初回時のその他の変数を独立変数とした重回帰分析結果

	非標準化係数		標準化 b	t	有意確率 (p)	β の 95.0% 信頼区間		VIF
	β	標準誤差				下限	上限	
定数	8.802	1.274		6.912	.000	6.208	11.397	
KISS	-.106	.026	-.585	-4.083	.001	-.159	-.053	1.000

ANOVA $p<0.01$ $R=0.585$ $R^2=0.342$ 自由度調整済み $R^2=0.322$

V. 発表 (誌上発表, 学会発表)

平成 29 年度なし. 今後, リハビリテーション関連学会で発表し, 論文投稿する予定である.

連絡先: 新岡大和, 〒030-8505 青森市浜館字間瀬 58-1 E-mail: y_niioka@auhw.ac.jp